



#2

OCTOBER 2009

Via Latina 22  
00179 ROMA (IT)SOCIETE DE MARIE  
SOCIETY OF MARY  
COMPAÑA DE MARIA

## マリア会の召命司牧会報

第2号 2009年10月

## 第2号の内容：

ページ 1/7	:	コルテス神父のインタビュー
2/7	:	コロンビア・エクアドールでの召命司牧
5/7	:	The Michel Movement
5/7	:	ニュース要約

次回の VOCSM は2010年2月に発行予定です。

皆さんの活動についてのニュース、写真、また提案などをどしどし送ってください。

VOCSM は皆さんのものです。 [genrelsm@smcuria.it](mailto:genrelsm@smcuria.it)

## 召命についてのニュース



さあ VOCSM 第2号です。  
今回の第2号を作成するに当たって、ご覧の新しいシンボルマークができました。これはマドリッド管区の司牧担当者 Rogelio Nunez, SM によるもので、彼は私たちにその恵まれた才能でもって貢献してくれました。網を投げよう、そして聖霊に語らせ、それに耳を傾けようという私たちへの招きです。Rogelio に感謝！

アンドレ フェティス, SM

**聖霊の息吹きが入るままに任せましょう、そうすれば私たちは聖霊が必要と判断される召命を得ることでしょう。**

マヌエル コルテス 総長

未来は聖霊の御手の中にあります。そして召命もまた同様です、何故なら呼ばれるのは聖霊だからです。私たちにとっては現在が大切です：「明日のことを思い煩ってはなりません。一日の労苦は一日で足りるのです」。「神の国とその義を求めなさい。そうすれば残りのものはみな加えて与えられます。」 将来に関して本当に私の気になること、それは召命の不足ではなく、「神の国と神の義」が来ることについて聖霊が今ここで私たちに求めておられることに対して、現時点で忠実であるかということです。もしも現時点で人が自分の召命に忠実に応えるならば、聖霊は将来に向けて召命を養い、将来を約束してくださることでしょう。もしも私たちの現在がそうでないならば・・・。

召命の不足を前にして、“解決策”は、ある人たちが考えるように、“若い顔つき”を示すこと、つまり、若くてダイナミックな修道者からなる一つまたは二つの共同体を構成し、ある種の魅力ある

ショーウィンドーを作り上げることではありません。召命は“肉より”生まれるものではないのです。救いの歴史、それは私が本当に信じており、自分の生涯を捧げてきた歴史ですが、この救いの歴史は、“肉の”道理に反して、それを通して豊かに、しかも非常に豊かになっていった非常に高齢の人々で彩られています。何故でしょうか？ それはまさに彼らが神の言葉に信頼し、それに忠実に従ったからです。“あなたの土地を離れなさい”、“将来の保証としてわたしがあなたに与えたあなたの息子を捧げものとしてささげなさい”。そしてアブラハムは従いました。「あなたが妻、子供たち、群れとともにミディアンの砂漠に作り上げた生活を離れ、・・・自分の命を救うために逃げ出したエジプトにもう一度戻りなさい・・・」。そしてモーゼは従いました。彼らは「主よ、そのようなことはどうか若い人にさせてください。それは私のような年齢の者のすることではありません」とは言いませんでした。御主が私たちを導き入れたこの神の国の歴史においては、実を結ばない危険は年齢からではなくて、私たちが自分の生命を守ろうとして命を閉じ込めてしまう動かない状態から来るのです。聖霊は息吹く風であって、「それが何処から来て、何処に行くかあなたは知らない」、聖霊は動きであり、私たちが動けることを望んでおられます。今は新しい時代であり、シャミナード神父ならば“新しい戦い”と表現するでしょうが、このことは、ミッションにおいて私たちが現存し、活動的であるための新しいやり方を求めているのです。ですから、もしも私たちが個人として、あるいは共同体として、門、吊り橋、城塞を作ろうとする誘惑に陥ってきたならば、門を開け、吊り橋をおろし、私たちの“城塞”の壁を壊す必要があります。私たちの共同体を見えるもの、入りやすいものにしようではありませんか。そうすれば聖霊の息吹きが入り込むことでしょう。そして私たちは聖霊が必要と判断される召命を得ることでしょう。私はそう固く信じています。

(マドリード管区訪問後の総長インタビュー； *Vida Marianista* no. 59, Madrid, 2009年2月)

## **“キリスト者の召命とマリアニストの召命に関心を持ってもらう時” コロンビア・エクアドールにおける召命の司牧**

**こんにちは、カルロス・フリオ、あなたはコロンビア・エクアドール地区の召命の司牧を担当しています。ここで簡単に自分を紹介してください。**

平和が皆さんにありますように。私の名前は **Carlos Julio Barragan Martinez** で、コロンビア人のマリア会司祭です。45年前にボゴタで生まれました。マリア会に入会したのは1987年です。ここ15年ほど、若者の召命司牧を担当しています。現在、ボゴタの **Nuestra Senora de la Caridad** 小教区の主任司祭です。



**コロンビア・エクアドールにおける召命司牧について話してください。**

私たちの目標は、子供、若者、そして神の国のために働いている私たちのすべての事業の召命奨励のグループを励まし、育て、指導することです。その目標ために、

- 青少年召命司牧のための私たちの地区のチームが作られました。
- 私たちはコロンビア・エクアドール地区のための青少年司牧共同プロジェクトを進めています。

- 12の視点からなる召命識別のためのたたき台が刊行されるとともに、キリストに従うものの模範として Miguel Angel Quiroga の簡単な伝記が書かれました。彼は貧者を守ろうとして準軍事部隊によって殺害されたマリアニストです。
- “Michel 運動” のための予備プロジェクトが組織されました。

これに加えて、私たちは次のような地区活動を行っています： 年二度の召命会議；一つは年の前半に開催される全体会議で、もう一つは年の後半の地域会議。 Michel 運動を構成するために任命された人々の年二度の会議。 “Miguel Angel Quiroga” 文化・スポーツ会合です。

### **マリアニスト共同体はこの司牧にどのように関わっているのですか？ あなたの最も重要な役割は何ですか？**

各共同体は若者の召命司牧のリーダーを任命せねばなりません。このリーダーたちは、私たちの共同生活と私たちのカリスマに興味を抱く若者たちを励まします。彼らはそれぞれの職場で召命のプロセスに同伴します。私の役目はこの活動を継続して支え、それぞれの分野でこの任務を果たしている兄弟たちの相談に乗り、激励することです。私のもう一つの任務は、この召命のプロセスにある若者とそれぞれの職場で会うことです。年に一度、私はこれらの若者と会い、召命上の話を続け、学校や事業所などを訪問する召命ツアーを行っています。

### **そしてマリアニスト家族は皆さんとどう関わっていますか？**

マリアニスト家族の各枝はそれぞれ責任者を任命しています。私たちは彼らと会合を開き、共同活動計画を練り上げています。私たちはまた、全マリアニスト家族と合同して、召命についての小冊子を作りました。このチームはシスター Marleny Cuartas Rico, FMI, Nidia Rodriguez Salazar, CLM, Carlos Julio Barragan 神父, SM で構成されています。

### **前期修練院に入ることを希望する若者にはどのような事前の準備が求められるのですか？**

この段階での特別の目標は、マリアニスト修道生活への呼びかけを感じる者を個人的に指導することです。それは、その招き自体とそれを感じる人物に、これが真の呼びかけであると判断するだけの必要なしがあるかどうかを識別するよう彼を助けることです。呼びかけを経験する者がその呼びかけを見極めるとともに、それを自分の人生の中に正しく位置づける力を得ることができるよう助けねばなりません。そのためには、自分を知ること、キリスト者の召命が何であり、その召命が何を意味しているのかを深めること、そしてそれを内面化することが必要です。

この段階では、その呼びかけを分析し、識別することが課題です。しかしながら、呼びかけを感じる者が「この課題は自分の召命に疑いを抱くことを意味する」とは思わない、ということに注意せねばなりません。この段階は、キリスト者の召命とマリアニストの召命に向けて検討する時というだけではなくて、激励し、熱中する時でもあるのです。この段階はまた、彼らの持つ素晴らしい可能性を見出すようになる時であり、この発見に支えられて、召命が必然的に含んでいる放棄を理會する時でもあります。

## この任務を遂行するのに助けとなる資料は？

はい、持っています。それは12の視点からなる召命識別のためのたたき台です。  
興味ある方は e-mail でお知らせください。喜んで送ります。 [cariulio2000@yahoo.es](mailto:cariulio2000@yahoo.es)

## 召命司牧の任務で最も重要と思われるものは何ですか？

私たちの辿っている道が幸福に向かう道であると心から確信することです。こうすることで私たちは私たちの生活の証しでこの幸せを感じ取らせ、他の人たちに感染させるのです。こうして神は私たちの協力をもって新しい召命を生じさせてくださるでしょう。

**どうも有り難う、カルロス・フリオ。あなたの働きにお恵みがありますように。**

## 共同召命活動について

### － コロンビアマリアニスト家族の召命司牧 －

私の名前は **Nidia Rodriguez Salazar** で、コロンビアの信徒マリアニストです。喜びと感謝の中に、私はマリアニストのカリスマに則した信徒生活において、具体的に、御主に従うようにと御主が与えてくださった招きを受け入れました。イエスの教えを自分の生活の中に実際に生かし、聖霊の現存を自由に受け入れたいと望んで、2002年、私はボゴタの“マリアニスト足跡” 信徒共同体でキリスト教養成課程を開始しました。私が祭壇でマリアに対して行った「世界にキリストを現存させるという彼女のミッションの協力者になる」という約束を深く生きようと望んで、私はコロンビアのマリアニスト家族の召命司牧の任務に対する CLM の代表者となることを受諾しました。

マリアニスト家族の召命司牧という **アイデア** は マリアニスト家族内で召命のプロセスにある人々をもっと活気づけ、強化し、指導する必要に応える中で、召命司牧活動を皆で遂行していこうという関心に対する応えとして生まれたものです。これはまた2009年1月にボゴタで開催されたマリアニスト家族の **CLAMAR** の会議において討議された2007年—2011年に向けた方向性と活動方針の一つが公式に採択されたものです。

コロンビアにおけるマリアニスト家族の召命司牧活動は、各枝からそれぞれ一名ずつ選出された下記のメンバーで構成されています： **Fr. Carlos Julio Barragan SM, Marleny Cuartas FMI, Nidia Rodriguez Salazar CLM**。実を言いますと、家族内でこのような活動が開始されたのはつい最近のことです。でも、この活動は非常にうまく行っています。私たち全員が、マリアニスト家族のこのプロジェクトを成功させようとする希望と協力の姿勢を持って前進しています。

Nidia Rodriguez Salazar, CLM



## MICHEL 運動 (MM)



Michel  
(1972-1998)

- これは若者たちの生活が教会と社会の中で証しとなるように、彼らを人間として、キリスト者として、また、マリアニストとしての召命に沿って養成する **青少年司牧と召命司牧の運動**です。
- **宇宙を全世代のための神のみ業として守る運動**
- 人が**憎しみや恨みなし**に生き、あらゆる種類の言葉の乱用がなくなる場所
- 社会の宗教的、社会的、政治的、文化的現実について**批判的意識**を持つ運動
- ナザレトのイエスの根本的な教えに従って**希望、信仰、愛**を生き、それを伝えるための運動
- その全メンバーの**教育**と継続的養成を心掛ける。

これは児童、少年、青年たちの信仰を**養成する**マリアニスト運動であって、その目的は彼らが Michel Angel Quiroga Gaona: **“Michel”** の若々しい生き方に倣い、いつくしみの心をもって、イエスが彼らに求めておられることを実行することです。

段階： 児童 (6歳から11歳)  
少年少女 (12歳から16歳)  
青年 (17歳から21歳)  
成人 (22歳以上) (CLM と一緒に)

Michel Movement (MM) の**全国集会**は、Michael が亡くなった1998年以降、Michel が夢見ていたように、子どもたちと若者たちに私たちの働きに参加してもらうことを目的として、マリアニスト オリンピックの形で開かれてきました。2008年には、若者の参加を目指したスポーツ行事と文化的行事とが一年ごとに交互に行われることが決まりました。今年(2009年10月)は文化的行事がボゴタに近い **Finca Santa Maria** で開催されることになっています。この行事はMM のリーダーたちの最初の養成キャンプです。このキャンプで、私たちはMM の目指すことについて青少年たちに働きかけ、彼らを力づけ、そして彼らの助けを得て、この運動を確かなものとするようにと願っています。

Nelson Mendieta & Edgar Palacios, SM

### 各地のニュース



#### スペイン： “enREDate”: マリアニスト家族の召命を求める祈りの高まり

“enREDate” はスペインのマリアニスト家族協議会の召命委員会の中で生まれました。私たちはスペインの二つのマリア会管区内に召命についての意識を高めるべく働いてきました。私たちは召命の本質的要素が御父からの呼びかけ、恩寵であることをますます意識するようになっていきます。「収穫の主に働き手を遣わすよう祈りなさい」という

イエスの御言葉に励まされ、私たちは御主に向けて熱烈な祈りの叫びを上げるプロジェクトをスタートさせました。

“enREDate” はマリアニスト家族への召命のため毎日祈る男性と女性からなるグループです。信徒は修道者と司祭の召命のために祈り、他方、修道者は信徒の召命のため祈るのですが、特に、祈る人たちが住んでいるところからの召命のために祈ります。

私たちは召命のため毎日5分間祈ることを約束し、全メンバーに共通のお祈りでもって終わります。私たちは毎日マリアニスト家族を神様の御手に委ねます。私たちは神様だけが私たちの必要としているものが何かを知っておられることに信頼して、神様が現在すでに存在している召命と今後生まれてくる召命をおはからいくさるよう祈ります。

三ヶ月ごとに、私たちはマリアニスト家族の召命についてのニュースを載せた簡単な冊子を送付しています。これはバレンシアのマリアニスト・フラテルニテ共同体の Paz Cortes によってデザインされた “Enredate” です。

(Cf. [http://www.marianistas.org/publicaciones/index\\_publicacion.php?Nombre=Enredate&Numorden=41](http://www.marianistas.org/publicaciones/index_publicacion.php?Nombre=Enredate&Numorden=41))

私たちは数年前に、“祈りの鎖”運動を始めました。各メンバーには一年の中の特定の日が割り当てられ、その日には、その人は誰かと、例えば共同体、家族、友人などと、より大きな召命のための祈りのネットワークを共にします。その狙いは、私たちの周囲に召命の話題を提供して、関心を持ってもらうことにあります。

このネットワークが開始されたのは2005年5月3日のことで、今やメンバー数は400名ほどになり、外国にまで広がっています。現在の構成員は Adrian Mazario, Begona Santapu, Paz Cortes, Juan Serra そして私、それにバレンシアのフラテルニテ マリアニストの全員です。

M<sup>a</sup> Ines Marco, CLM, スペイン

チームへの参加は簡単にできます：

インターネットでは：[enredate@marianistas.org](mailto:enredate@marianistas.org)

通常の郵便ならば：  
M<sup>a</sup> Ines Marco Adrian-RED  
Colegio Nuestra Senora del Pilar  
Avda. Blasco Ibanez 35 – 46021 Valencia, Espana

“enREDate” という語の説明：

1. スペイン語の RED は、英語の NET（網）、あるいは、“ネットワーク”の意味です。私たちはここでこの二つの意味で使っています。
2. スペイン語の Enredarse は網に入る、入り込む、約束するを意味します。“enREDate”は命令形で、“この網、ネットワークに入り込みなさい”の意味です。

## アメリカ

アメリカの有力なカトリック週刊誌 “The New Catholic Reporter” は、9月14日、「最近の調査が示す召命の光」と題するアメリカの男子修道会協議会の召命委員会責任者との興味あるインタビューを発表しました。このインタビューの中で、記者は「召命司牧の分野で成功を収めつつある三つの男子修道会」を挙げ、その中の一つがマリアニストと記されています。活動の成果がこのように認められたアメリカの召命チームとそのリーダー Charles Johnson, SM にお祝いを述べたいと思います。

このインタビューをインターネットでご覧になりたい方は以下にアクセスください：

<http://ncronline.org/news/new-study-reveals-rays-light-vocations-front>

## メキシコ

### Tancanhuitz, San Luis Potosi での召命の日

2009年8月20日から23日にかけて Tancanhuitz, SLP で召命の日が開催され、35名の若者が参加しました。これは Bro. Fermin Garcia, SM と Bro. Rigoberto Martinez, SM が組織したものです。“2×2”というこのプログラム（会員が二人ずつ組んで行うプログラム）は、マリア会への召命を促進するために色々なところで出ていくことを目指したものです。

3.10 私たちは、周りの若者たちを激励し、より効果的に他の若者たちと接触する新しい方法を見出す必要があります。それは彼らが教会の中で自分たちのタレントを最大限に発揮するようにするためです。

*CLM/MLCs in the Church and in the World, Nairobi, August 2009*

## コートディボアール

今年8月2日から24日にかけて、20名の若者がアフリカのノートルダム学院 (Bietry-Abidjan) でのマリアニスト ワーク キャンプに参加しました。このプログラムには学校での作業時間、考察と祈りの時間、そして何よりも共同体とリーダーたちの間にあってマリアニストの生活に触れる時間が含まれていました。リーダー役を果たしたのは Fr. Noel Dominique Kouado Akobe, Bro. Lambert Kouassi, Bro. Patrice Comoe です。

## 次号は2010年2月です。

どうか、皆さんからのニュースや写真、活動状況、記事についてのコメントや提案、などを送ってください。VOCSM は皆さんのものです。 [genrelsm@smcuria.it](mailto:genrelsm@smcuria.it)

**SOCIETE DE MARIE – SOCIETY OF MARY – COMPANIA DE MARIA**  
Via Latina, 22 – 00179 ROMA (IT)  
[genrelsm@smcuria.it](mailto:genrelsm@smcuria.it)